

大分大学大学院 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

医学系研究科修士課程看護学専攻 【修士（看護学）】		高度な知識と知的能力	確かな研究マネジメント能力	社会を牽引する能力
ディプロマ・ポリシー	既定の教育課程を修了し、以下の能力を修得した学生に、修士（看護学）の学位を授与します。	看護学の理論と実践に関する豊富な知識と高度な技術を修得し、幅広い視野から柔軟に問題を解決する能力を身につけることができる。	看護実践・看護管理・看護教育の分野において自主的に研究課題を立て、その課題の探究に必要な基礎的研究能力を形成することができる。	保健・医療・福祉の専門職との連携において、看護専門職として主体的行動ができ、コーディネーターとして問題解決の調整に優れた能力を発揮することができる。 地域社会の健康問題の解決に看護職として率先して取り組み、多様化・国際化した看護活動の必要性をふまえ、看護支援方法の研究・開発を展開し、学術的な成果として社会に還元することができる。
カリキュラム・ポリシー	<p>学位授与の方針を実行・達成するために、以下の方針で教育課程を編成・実施します。</p> <p><教育課程の編成と教育内容></p> <p>社会や保健・医療・福祉の変化を見据え、看護の質向上を実現できる実践力を養い、看護実践・看護管理・看護教育の場でリーダーシップを発揮できる高度専門職業人の養成を行うために、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、以下の方針で教育課程を編成し・実施する。</p>	教育課程の編成と教育内容	<ol style="list-style-type: none"> 看護研究コースは、変動する社会の要請に応え得る質の高い看護活動（個人・集団への看護実践とその管理ならびに看護教育）を創造し、改革するための諸理論と方法を修得するためのカリキュラムを編成・実施する。 専門看護師コースは、日本看護系大学協議会が定める高度実践看護師教育課程基準（専門看護師 38 単位）に則り、専門看護師としての高度実践能力を培うためのカリキュラムを編成・実施する。 両コースの共通必修科目は、看護現象を科学的かつ倫理的に探究するために基盤となる科目を配置する。 共通選択科目は、学生自身が持つ看護活動上の課題について探究できるよう多彩な選択授業科目を編成する。 専門コース科目は、健康科学、看護管理・教育、看護実践、がん看護、クリティカルケア看護、老年看護等の専門分野における高度な知識や技術、実践を修得できるような科目で構成する。 特別研究科目は、共通必修科目、共通選択科目、専門コース科目を基盤に、学生自身が持つ看護活動上の課題や関心から研究へと展開する研究遂行能力を培うために、指導教員のもとで研究過程を学ぶ体制を整える。 	
		教育方法	<ol style="list-style-type: none"> すべての科目は、学生による発表・討議を中心に行う。また、学術論文や専門書等の文献検討、自身の看護活動の言語化・概念化を繰り返し行い、知的探究力を養う。 学生個々の背景（基礎教育や看護活動経験等）の多様性・特徴を理解した上で、学問的、科学的探究の本質と方法について個別的に教育・指導を行う。 修士論文指導においては、担当教員による個別指導が基本であるが、論文提出から公開審査までの間、審査委員会による教育的な予備審査をとおして修士論文の洗練化を指導する。 社会人の就学と仕事の両立を可能にするため、長期履修制度や昼夜開講制を適用し、学生が計画的に履修できるよう教育・指導を行う。 	
		学修成果の評価	<p>学修成果の評価は、アセスメント・チェックリストにより実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 毎年度、学生対象に教育評価調査と教員による授業科目の教育評価を行い、「大学院看護学専攻教育評価」としてまとめ公表する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 学生対象の調査は、学修目標の到達度や授業科目の学修評価、教育全体の評価で構成する。学生にとっては、自己の学修成果と課題を評価する機会となる。 2) 教員は、担当する授業科目の実施状況と評価を記述し、次年度以降の教育改善に活かす。 修士論文に関する学修成果は、研究倫理審査や修士論文研究計画検討会、公開審査における学生の発表内容や質疑応答の状況により評価する。公開審査後、看護学専攻部会において各修士論文の審査内容を共有し指導評価を行う。 	

大分大学大学院 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

医学系研究科博士課程医学専攻 【博士（医学）】		高度な知識と知的能力	確かな研究マネジメント能力	社会を牽引する能力
ディプロマ・ポリシー	既定の教育課程を修了し、以下の能力を修得した学生に、博士（医学）の学位を授与します。	科学的基盤に基づいて先端医療を理解又は実践することができる。 基礎・臨床医学、及び生命科学における深い学識と高度な情報収集能力・分析能力および研究技術を備えている。	実験室や調査フィールドあるいは臨床の場における実践的な経験に基づいた、医学者としての研究者倫理を有している。 自らの研究歴あるいは臨床経験に基づいて、その学識・能力・技術を基盤に、自ら課題を見出し、それを解決・展開できる。	自らの研究成果を客観的に分析し、目的と背景・研究方法・結果・考察、さらに今後の発展の可能性について発表し討議することができると共に、その成果を欧文論文として発表する総合的な情報発信能力を有する。 医学研究を通して人類の繁栄と福祉に貢献することができる。
カリキュラム・ポリシー	学位授与の方針を実行・達成するために、以下の方針で教育課程を編成・実施します。 「患者本位の最良の医療」に立脚した人間形成を基盤として医の倫理を体得し、高度な医学知識の修得を目標とした教育を実践する。医科学および生命科学領域において、高度な知識および科学的・論理的思考に基づき、独創性・創造性に優れた研究を遂行し、国際的にも活躍できる自立した研究者、および各診療分野で優れた臨床研究能力と先端的で高度な医療技術を備え、高い倫理観と研究心を持った臨床医を育成するために、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、以下の方針で教育課程を編成し・実施する。	教育課程の編成と教育内容	<ol style="list-style-type: none"> 「基礎研究領域」は、多様化する基礎医学の高度な知識および科学的・論理的思考に基づいた研究遂行能力と高度医療に関する先端的・専門的な臨床研究を遂行できる能力が培われるための諸理論と方法を修得するためのカリキュラムを編成・実施する。組織病理学、分子神経学、微生物感染免疫学等の科目で構成する。 「臨床研究領域」は、臓器別系統的学問体系の高度な知識および科学的・論理的思考に基づいた研究遂行能力と高度医療に関する先端的・専門的な臨床研究を遂行できる能力が培われるためのカリキュラムを編成・実施する。消化器内視鏡学、臨床心臓病学、外科臨床診断学等の科目で構成する。 「がん研究領域」は、癌研究領域に特化した基礎・臨床融合型の網羅的カリキュラムを編成・実施する。がん分子標的薬開発学、がん放射線治療学、臨床腫瘍治療学等の科目で構成する。 「理学療法研究領域」は、理学療法関連領域に特化したカリキュラムを編成・実施する。理学療法基礎科学、神経・運動器関連理学療法学等の科目で構成する。 「共通科目」は、医学現象を科学的かつ倫理的に探究するために基盤となる科目を配置する。共通科目は、学生自身が持つ実践上の課題について探究できるよう多彩な選択授業科目を編成する。研究推進実践論、生命倫理学、医学情報システム学等の科目で構成する。 	
		教育方法	<ol style="list-style-type: none"> すべての科目は、学生による発表・討議ならびに教員による講義を中心に行う。また、学術論文や専門書等の文献検討、概念化を繰り返し行い、知的探究力を養う。国際化を見据え、講義・発表を積極的に英語で行う。 学生個々の多様性・特徴(基礎教育や臨床経験など)を理解した上で、学問的、科学的探究の本質と方法について個別的に教育・指導を行う。 大学院生ごとに1人の指導教員を置き、さらに副指導教員を置くことで複数指導教員制を選択できる指導体制とする。博士論文指導は、担当教員による個別指導が基本であるが、研究室内検討会による教育的な検討をとおして博士論文の洗練化を指導する。博士論文は権威ある欧文誌に採択されたものが条件であり、この過程を通して研究成果公表に要求される全てを習得する。 社会人の就学と仕事の両立を可能にするため、長期履修制度や昼夜開講制を適用し、学生が計画的・弾力的に履修できるよう教育・指導を行う。 	
		学修成果の評価	<ol style="list-style-type: none"> 3年次修了前後に、大学院生による公開の研究発表会を義務付け、研究の進捗状況を発表し、参加教員からの意見やアドバイスを受けて研究の取りまとめに資する。 毎年度、学生対象に研究指導計画書を作成し進捗状況と学修目標の到達度評価に基づいた研究計画修正を行う。教員は、担当する授業科目の実施状況を評価し、次年度以降の教育改善に活かす。 博士論文に関する学修成果は、研究倫理審査や博士論文公開審査における学生の発表内容や質疑応答の状況により評価する。 	